

パキスタンの概説書と専門書 (ライブラリー・コーナー)

著者	東川 繁
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	192
ページ	54-54
発行年	2011-09
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004164

パキスタンの概説書と専門書

東川 繁

日本におけるパキスタン関連の報道は、政変や自爆テロなど、なんらかの「事件」が起きたときに限られているように思われる。この国の歴史や文化について取り上げられることもあまりない。しかし、国土面積は日本の二倍以上、世界六位の人口規模を持つこの国は、もつと注目されていくべきであろう。そこで、パキスタンについての理解を深めようという際に参考となる和図書を紹介してみよう。

まず、地理・歴史・政治・経済などの諸分野にわたって概説した、いわゆる「国別概観」の体裁を取ったものを見てみよう。

小西正捷編『もつと知りた
いパキスタン』（弘文堂 一
九八七年二月）は、この種
の図書としては最初のもので
ある。増刷に合わせて部分的
な改訂を施しているが、全面
的な改訂は行われていない。
それでも、一通りの理解を得
ようとする場合にはいまだに
有益なものである。同趣旨の
ものには、広瀬崇子・山根聡・

小田尚也編著『パキスタンを知るための六〇章』（明石書店 二〇〇三年七月）がある。同社の「エリア・スタディーズ」シリーズのなかの一冊。全体は、「パキスタンの輪郭」、「宗教・社会・文化」、「パキスタンを旅する」、「政治・外交」、「経済」、「日本とパキスタン」の六部で構成されている。ほとんどの章に写真が付されており、文章もわかりやすい。編者によると、テーマもあえて「おもしろさ」を重視して選択したとのことである。

つぎに、人文・社会科学部門の専門書をあげてみよう。

黒崎卓・子島進・山根聡編『現代パキスタン分析：民族・国民・国家』（岩波書店 二〇〇四年一月）は、数少ない専門的研究書。パキスタン理解に最も重要な三つの概念を副題に付したとのこと。「パキスタン統合の原理としてのイスラーム」、「ムスリム資本家とパキスタン」など、一一論文を納める。子島進著『イスラームと開発：カラーコラムにおけるイスラミール派

の変容』（ナカニシヤ出版 二〇〇二年二月）は、パキスタン北部カラーコラムにおける宗教共同体の変容を論じたもので、著者の博士論文を基にしている。本書の副題はその博士論文名を転用したものである。科学研究費補助金・研究成果公開促進費の交付を受けて出版された。

インド・パキスタンの分離独立については、ひとつの「神話」があるという。すなわち、ムスリム連盟とその指導者ジンナーは、多民族国家・政教分離主義を目指したインドの民族運動に反対し、反近代的な政教一致国家を強引に実現しようとした、というものである。アイシャ・ジャラル著・井上あえか訳『パキスタンの軌跡三』（勁草書房 一九九九年九月）は、このような「神話」に対する反論の書。著者はアメリカ在住の歴史学者。パキスタンのラホールに生まれ、イギリスで教育を受けた。著者がイギリスの大学に提出した博士論文が土台となっており、原著は一九八五年刊行。同じシリーズには、フレドリック・バルト著・麻田豊監修・子島進訳『スワー

ト最後の支配者（南アジア・現代への軌跡二）』（勁草書房 一九九八年一〇月）がある。分離独立時にパキスタンに統合され、一九六九年には行政区分上も消滅した藩王国の歴史と、最後の支配者（ワリーと称する）の生涯を描いたもの。原著は一九八五年刊行。女性に焦点を当てて書かれたものを二点紹介しよう。

工藤正子著『越境の人類学：在日パキスタン人ムスリム移民の妻たち』（東京大学出版会 二〇〇八年四月）は、一九八〇年代から九〇年代に労働者として来日したパキスタン人ムスリム男性と結婚した日本人女性を対象として、ムスリムとしての自意識や生活の変化を調査・分析したものである。著者の博士論文が土台となっている。フォージア・サイード著／太田まさこ監訳／小野道子・小出拓己・小林花訳『タブー：パキスタンの買春街で生きる女性たち』（コモンズ 二〇一〇年一〇月）は、パンジャブ州ラホールのいわゆる「赤線地帯」を、芸能と売春の歴史的な関係にまでさかのぼって調査したもの。著者がアメリカの大学に提出した博士論文を基にしている。著者

はパキスタンで様々な女性支援を行っている著名な社会活動家。原著は二〇〇二年刊行。最後に、当研究所の成果を三点紹介しておこう。

山中一郎編『現代パキスタンの研究：一九四七〜一九七一』（アジア経済研究所 一九七三年八月）は、分離独立以降の同国の政治・経済・社会に関する総合的な研究。山中一郎編『パキスタンにおける政治と権力：統治エリートについての考察』（アジア経済研究所 一九九二年一月）は、国家権力の中核を形成する政治家・軍人・官僚・宗教勢力・大土地所有者・産業資本家に焦点を当てた研究。佐藤創編『パキスタン政治の混乱と司法：軍事政権の終焉とブレゼンスをめぐる』（アジア経済研究所 二〇一〇年三月）は、近年のパキスタンにおける政治変動の背後には法制度上の問題点、政権中枢と司法部との特別な関係があるものと認識し、この点に絞った考察を行ったものである。

（ひがしかわ しげる／図書館資料企画課）